

決算特別委員会 第2分科会 令和2年10月2日 健康局

1. コロナ対策について

平野達司 コロナ対策とMY CONDITION KOBEの2点伺いたい。
コロナ対策について。国が推奨するCOCOA(新型コロナウイルス接触アプリ)と兵庫県の新型コロナ追跡システムがあるが、市としてどう対応されたか。

花田健康局長 市としてホームページや広報紙で登録を呼びかけた。

平野達司 国のCOCOA開始日6月19日から市の9月29日時点のPCR検査の累計が1万4218件ある。この方々にCOCOAのアプリの推奨や登録の依頼はしたか。あわせて感染者654件にCOCOAの入力はされたか。

花田健康局長 PCR検査を受けた方に推奨していない。感染者の方には申し出があれば登録してくださいとの案内にとどめている。登録することで機能するので少しでも登録するよう徹底していく。

平野達司 インフルエンザとコロナ、症状がわからないケースが多いと思うが医療機関の検査体制で短時間で検査結果がわかる抗原迅速キットが有効と思うが。

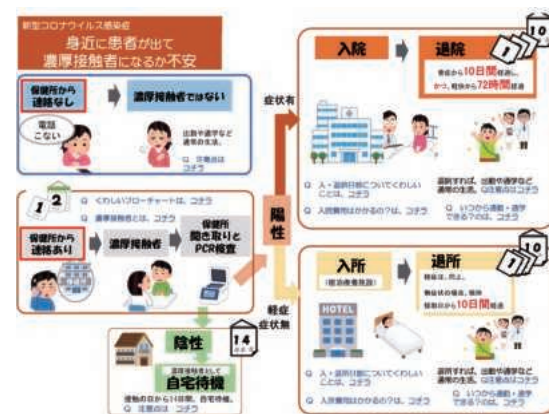
樋口健康局担当部長 抗原迅速キットの活用は医療機関に依頼するとともに、PCR検査も自院での検査、民間の検査機関への契約による検査と、両方行うよう依頼している。

平野達司 コロナの関係で地域の皆さんから多くの問い合わせがある。万が一感染したら退院までどういう流れになるのか。患者さんのフローチャート、図式化してわかるような広報すべきではないか。

樋口健康局担当部長 今後ホームページにフローチャートを掲載する。



フローチャート図掲載のHP



2. 健康アプリについて

平野達司 神戸市が作った健康管理アプリ MY CONDITION KOBEについて伺いたい。健康創造都市KOBEの推進としてこのMY CONDITION KOBEが昨年4月から運用開始されたが、市民の健康増進が目的と思うが目指している先は。

花田健康局長 目指すのは2点。1点目は個人の健康づくり・市民はこのアプリを利用して健康管理し、アプリから健康アドバイスを受け、楽しみながら健康になる。2点目はそこで集めたデータをビッグデータ化する。それをもとに新しい知見を政策に反映する。効果が検証された新サービスを市民に還元する。誰もが健康になれる街の実現を目指している。

平野達司 究極は予防医療である。新しい技術と情報を蓄積しビッグデータ化し予防医療の実現を目指すべきと思うが。

花田健康局長 いわれるとおりで、ビッグデータを通じて予防医療のほうにシステムを作っていく考えだ。

平野達司 MY CONDITION KOBEは人間ドックの情報や画像のAI診断の情報を速いスピードで取り込んでいく能力を持っている。朝ご飯や昼ご飯の写真を撮ることで、品名の識別反応やカロリー計算がすぐ出てくる。しかし機能は優れているが継続利用は少ない。大きなメリットになっていない。

熊谷健康局副局長 健康アプリの継続利用率30%で少ない。研究や実証を実施していくには継続利用率を高める必要がある。

平野達司 MY CONDITION KOBEは文部省の世界に誇る地域発研究開発・実証拠点推進プログラムとして5年間の国の支援を受けて生まれたプロジェクトである。この5年間の先行している有利性を有効に使うべきだ。神戸の医療産業都市の財産でもある。知恵と民間の力を活用して予防医療に努め価値を見出してほしい。

熊谷健康局副局長 実証事業、学術研究を加速させ、得られた知見で予防医学に生かしていきたい。

神戸市会議員平野達司(たつじ)事務所
神戸市兵庫区東山町2丁目8-61 マルシン市場2F
TEL:078-531-8780 FAX:078-531-5301
メールアドレス:th.tatsuji.hirano@gmail.com



平野たつじ HP



平野たつじ Facebook
神戸市の情報をお伝えいたします。

神戸市会の
本議会、委員会を
インターネットにて
閲覧できます。



神戸市会